

平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部	職名	助教	助成金額	300,000 円
氏名	高野 美香		印		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
看護師の病棟組織風土認知尺度の開発および組織風土が看護師のバーンアウトに与える影響					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>提出した助成金給付申込書および研究計画書に準拠し、助成金を使用して下記の内容について研究を遂行した。</p> <p>「看護師の病棟組織風土認知尺度」の開発にあたり、文献研究後、看護師臨床経験 5 年以上の看護学研究者で構成された専門家会議を開き、尺度項目を精選した。さらに、内容的妥当性の確保として、それぞれの項目が目的にあった内容か、表現の不明瞭さや重複内容・測定内容の欠損がないか等を確認し、また、表面的妥当性の確保として、意味不明な項目、意味内容が重複している項目、回答困難な表現がないか等を確認した。その結果、33 項目で構成された「看護師の病棟組織風土認知尺度」の原案が完成した。</p> <p>次に、開発した「看護師の病棟組織風土認知尺度」の原案について、尺度の信頼性・妥当性の検討をするため、4 病院の看護師 857 名を対象に質問紙調査を実施した。</p> <p>質問紙は、開発した尺度と個人属性、および基準関連妥当性を確認するための外的基準になる尺度を用いて作成した。調査は 2 回行っており、尺度の信頼性をテスト再テスト法を用いて確認するために、1 回目の調査終了から 2 週間後、1 回目の対象者である 857 名に 2 回目の質問紙調査を実施した。調査は、所属大学の倫理審査委員会で承認を得て行った。</p> <p>調査での質問紙の回収数は、1 回目は 668 部で、有効回答の 602 部を分析対象とし、2 回目は 594 部で、1 回目と 2 回目の質問紙で同一の記載者と照合できた 456 部を分析対象とした。分析は SPSS Statistics24 および Amos24 を用いた。</p> <p>分析の結果、「看護師の病棟組織認知風土尺度」は 19 項目 4 因子で完成し、妥当性・信頼性については、概ね検証された。</p> <p>開発した尺度で、看護師の病棟組織風土に対する認知が測定できるようになった。引き続き「看護師の病棟組織風土認知尺度」を用いた質問紙調査をしており、今後、看護師のバーンアウトに与える影響を明らかにしていく予定である。看護師のバーンアウトは、看護師の心身の健康への悪影響だけでなく、離職意図にも関連するという結果がある。高齢化社会で看護師のニーズが高まっており、看護師がバーンアウトせずに働く病棟につなげられる研究としていきたい。</p>					
助成金の使用金額及び使途					
<ul style="list-style-type: none"> ・学会関連経費（英文校閲費・学会参加費・旅費）：182,991 円 ・調査関連経費（質問紙郵送費・病院訪問／研究打ち合わせ 交通費）：51,992 円 ・消耗品費：46,742 円 ・文献取り寄せおよび書籍購入費：4,429 円 ・印刷費：17,117 円 <p>上記から助成金額の 300,000 円を超過した費用（印刷費：3,721 円分）は、自費で補完し、300,000 円は満額執行した。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
<p>助成金を使用した成果は、2018 年 1 月 11 日～12 日に韓国で開催された 21st EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars) & 11th ICN (International Nursing Conference) で Selection of question items for a scale to measure perceptions of nurses of organizational climate in wards という題目で発表した。</p> <p>発表に使用したポスターには、財団せせらぎからの助成を受けた研究であることを明記し、発表時には、助成を受けた旨を説明した。</p>					